



## 石部棚田保全事業

### ①抱えている課題

地元保存会の高齢化により作業効率が落ち、さらには担い手不足により石部棚田の維持管理が困難になっています。

### ②課題に対する取組み

棚田における農作業体験、また人と人との交流を図るためオーナー制度を設け、地元民だけでなく、都市部からも石部棚田に携わっていただける仕組みを導入しています。

オーナー制度とは、1口年間35,000円を会費として1区画を割り当て、その区画での田植えや稲刈りなどの作業体験をしてもらう制度です。このほか、1口年間10,000円のトラスト会員もあり、こちらは作業参加が自由で、気軽に棚田での作業体験ができるものです。



### ③目指している将来像

地元民だけでなく、地域外からも石部棚田保存会として運営に携わっていただき、今後も石部棚田を次の世代に残していくこと。

### ④企業様に向けたメッセージ

農林水産省が選定した「つなぐ棚田遺産」の1つである石部棚田は、かつて全体の9割が耕作放棄地となり、奇跡の復活を遂げた棚田です。石部棚田の運営は、会員様からの会費、そして町からの補助金で支えています。日々の管理をする地元保存会の高齢化により作業効率が落ち、以前は3日でできた作業が5日かかったりなど、人件費は年々増えています。また、台風や大雨により護岸が崩れることもあれば、農道や作業小屋の整備も必要です。地元保存会は平均75歳のため、このまま次の担い手が見つからなければ、早ければ5年後には今の規模で運営することは困難です。日本の原風景である棚田を次の世代に引き継ぐため、石部棚田保全事業に力をお貸しください。

そんな松崎町の取組みを応援し、ご支援いただける企業を募集しています。



## デマンド型交通実証実験事業

### ①抱えている課題

過疎化の進行による人口減少や児童生徒数の減などにより、乗車人数が減って乗降調査の結果も悪くなり、年々町の負担額が増えていくことが課題となっている。

### ②課題に対する取組み

現在の大型バスによる運行を見直し、デマンド型交通の実証実験を行う。

デマンド型交通とは、路線バスとタクシーの中間的な位置にある公共交通機関のこと。事前予約により運行する特徴があり、運行方法や運行ダイヤ、発着地の自由度の組み合わせにより、多様な運行形態が存在する。



### ③目指している将来像

県道沿いだけでなく、集落内や役場など、様々なところにバス停を設置し、利便性の高い交通機関とすること。

### ④企業様に向けたメッセージ

車社会において、バスを移動手段として利用する人は年々減っています。本町では、5年間(H28~R3)で利用者数が50%も減少しています。これは本町に限った話ではなく、伊豆半島エリアや他県においても似た状況です。このデマンドバスは、集落内にバス停を設置することで、これまで路線バスを利用していなかった新たな顧客を獲得し、高齢者などの外出機会を増やすきっかけになります。このデマンド交通が導入され浸透していくことで、日本全体の公共交通のあり方に大きく影響すると信じています。

そんな松崎町の取組みを応援し、ご支援いただける企業を募集しています。